

電磁型薄型スピーカー(その2)

中山正夫

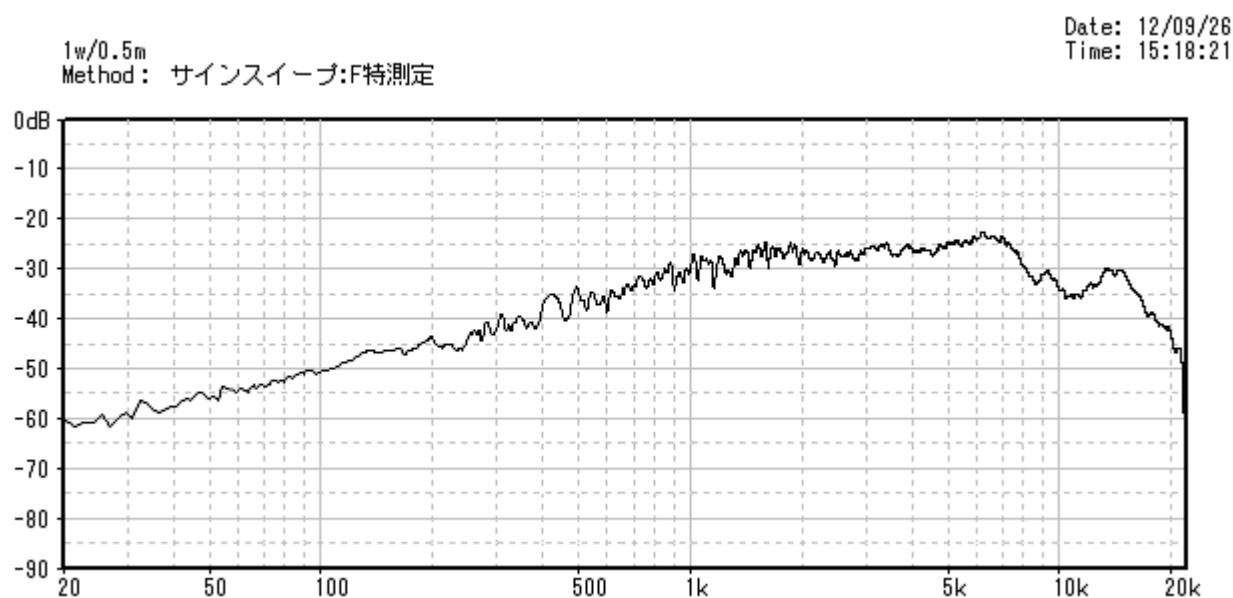
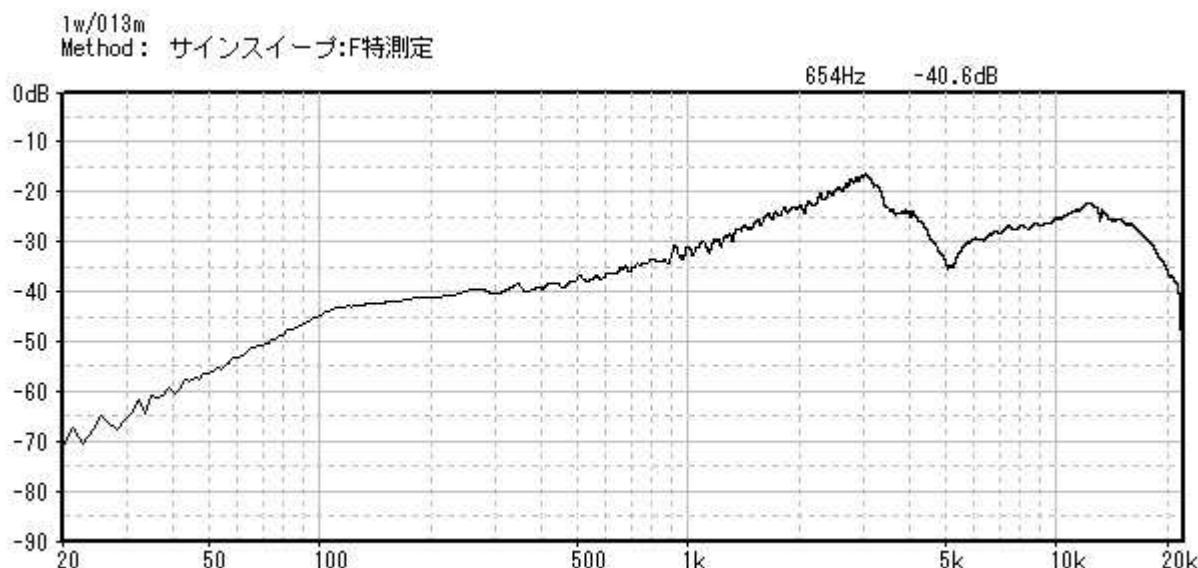
1. はじめに

昨年のオフ会で披露させて頂いた電磁型薄型スピーカーの続報です。

昨年、「音は悪いですが…」と逃げ口上を言ってから聞いて頂きましたが、平面ユニットのみの音ということで低域だら下がりの迫力の無い音でも箱に入れればと好意的?に聞いて頂きました。

と言う事で、原理とか前置きは去年の資料を参照して頂く事とし省略させて頂きます。

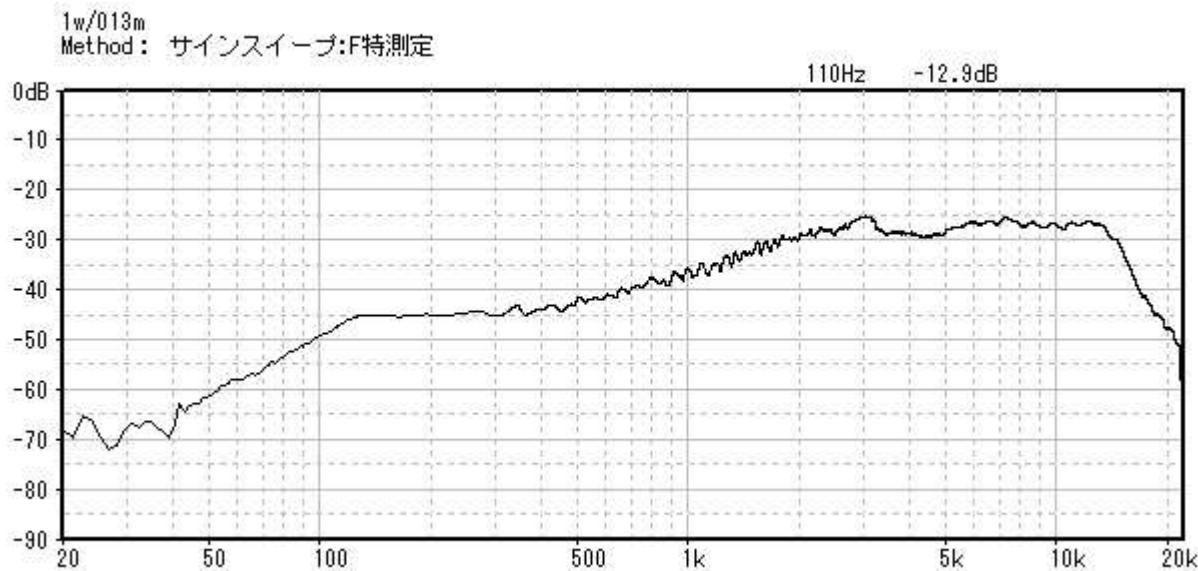
昨年は比較的大きなユニットを聞いて頂きましたが今回は少し小さなユニットのご紹介です。

2. 比較して頂くユニットのご紹介**2-1 平面 270×190 サイズ(これは、比較用で昨年聞いて頂いた中の唯一の平面のモノ)****2-2 平面 70×70 サイズ.**

2-3 平面 70×70 バスレフ型箱入り

(F 特 データ無し)

2-4 平面 140×40 サイズ



3.特長(裏の声) [昨年と同内容]

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| ① 原理的に歪が少ない | 少振幅時のみ、大振幅時にはクリップ+異音能率が低い上、異音の原因でもある |
| ② エッジフリーで傷むモノが無い | 薄型を標榜する為、バッフルレスで低域が出無い |
| ③ 全面駆動でフルレンジ | 勿論、コストもそれなりに高くなる |
| ④ 大面積の製作も可能 | DF が大きい場合は御利益が無い? |
| ⑤ インピーダンスがフラット | 平面だと指向性が強くリスニングポジションが狭い |
| ⑥ 平面／湾曲で指向性を制御可能 | |

小型のユニットでユニットのみとバスレフ箱入り(適当な箱)を比較して聞いて頂きます。

小型のユニットはニアフィールド用としてのみ聞ける音に成ろうかと思います。

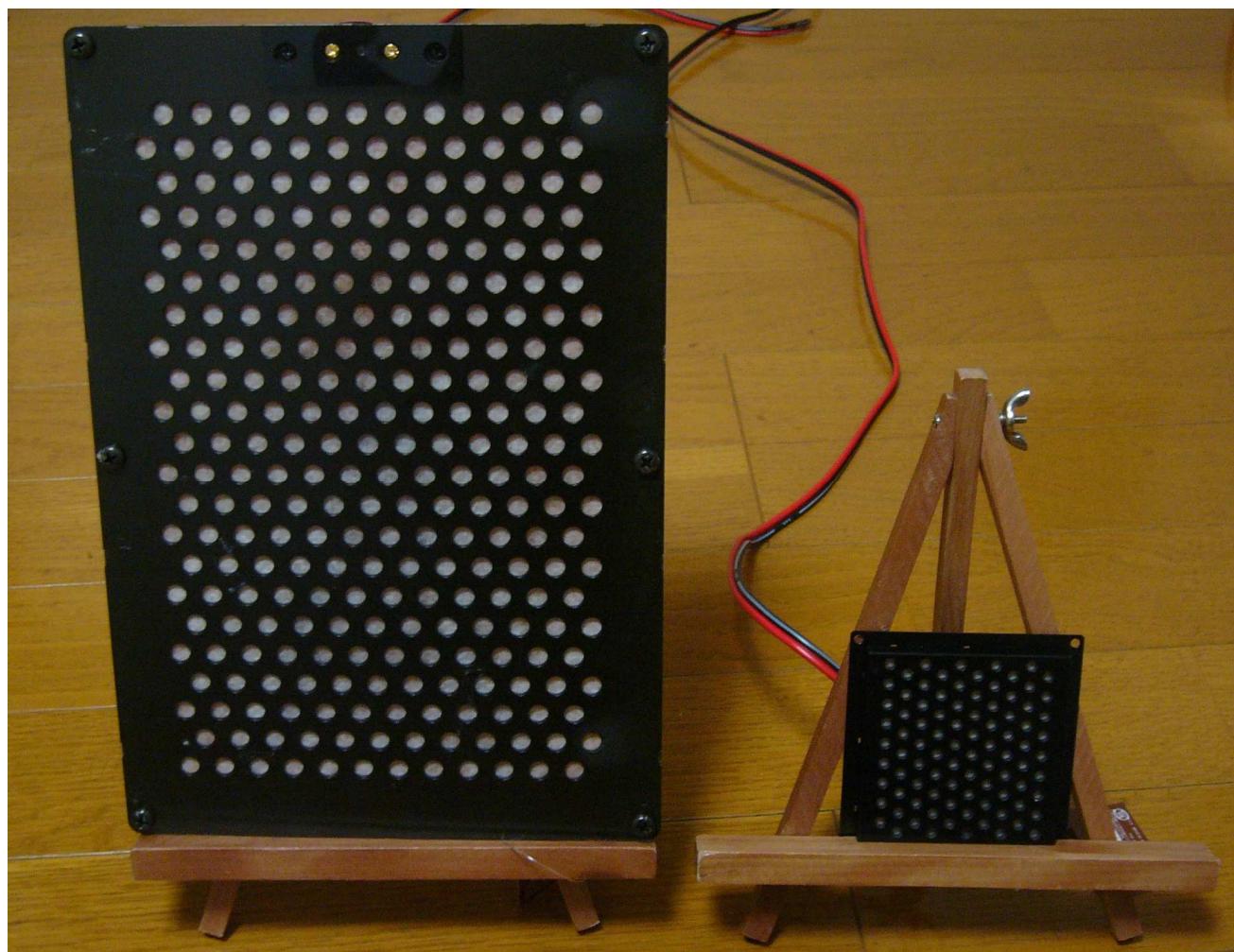
4. 結びに変えて

両側に磁石を配して直交磁場を作り全面駆動する原理では振幅(排気量)と能率が相反します。
リボン型で中低域まで出せるユニットを模索していますが、素材メーカーが開発を止めたり、加工外注が廃業したりと隘路に立っています。

以上、取り留めも無く…。

スピーカー再生技術研究会

2013



↑ 2-1 ↓ 2-3

↑ 2-2 ↓ 2-4

